

住まいの中の安全対策!!

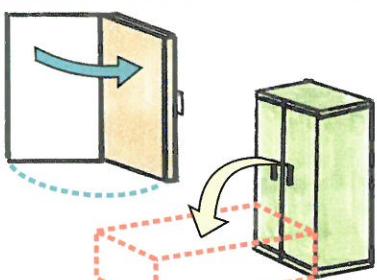
すまいの安全、まずは身近なところから！

過去の地震被害では、住宅そのものの被害が少なかった住宅においても、家具の転倒や落下、散乱したガラスによりけがをしたり、避難する際の逃げ道がふさがれ避難や救助が遅れたケースがあります。

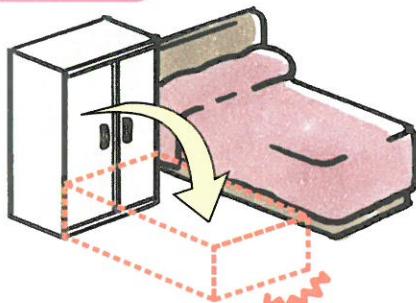
地震から大切な家族を守るためにも、家具の転倒に対して、できることから実施していきましょう。



家具の置き方を工夫しましょう



- ドアの開く位置を考えて家具を置きましょう。



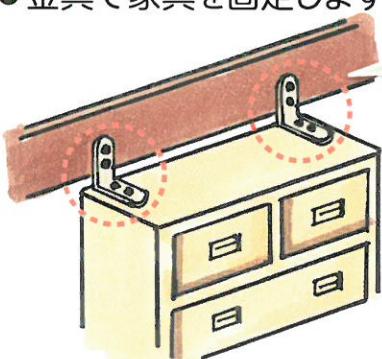
- 家具が倒れてきても安全な場所で寝ましょう。



- 重い物は下に、軽い物は上に置きましょう。

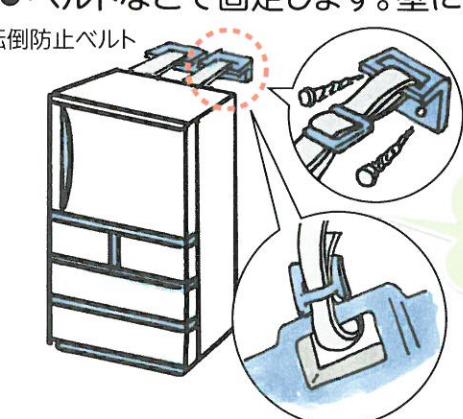
家具を固定しましょう

- 金具で家具を固定します。



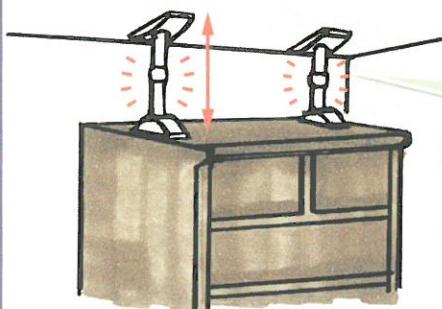
L字金具で固定するのが最も効果的です。

- ベルトなどで固定します。壁に近づけて固定。



転倒防止用ベルトなどで固定します。

- ポール式(つっぱり棒式)はご注意を!



突っ張り棒での家具固定は天井がしっかりとしていて、家具とのすきまも小さくないと効果が期待できません。

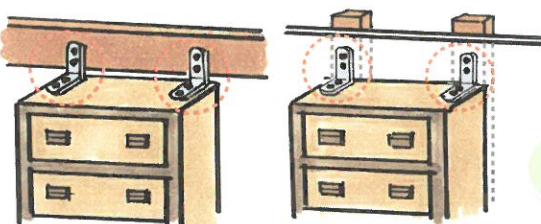
家具固定器具や固定方法については裏面をご覧下さい



固定する場合の注意点

家具と壁を直接固定する場合

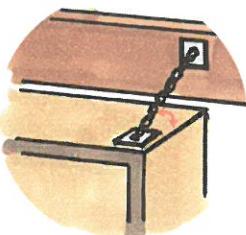
- まず固定する壁に鴨居や壁の桟を確かめてください。



- 壁の桟がある場合は叩くと「コンコン」と硬い音がします。



- チェーン式やベルト式の固定器具で固定する場合は、家具の側面に30°以下の角度でピンと張る必要があります。

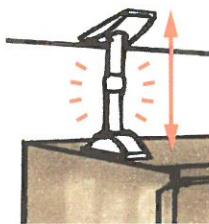


※賃貸住宅にお住まいの方は壁に穴を開けてよいか家主の人に確認してください。

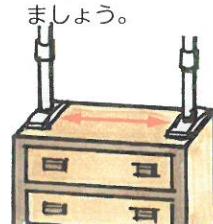
※桟がない壁や遮音・耐火の問題などから穴をあけられない壁があるので不明な点は必ず工務店などに確認してください。

家具と壁を直接固定しない場合

- 家具と天井の間が大きく空いていると外れやすいです。



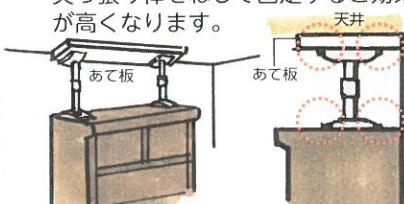
- 突っ張り棒は家具の両側の側部に設置しましょう。



- 壁側に寄せて設置しましょう。

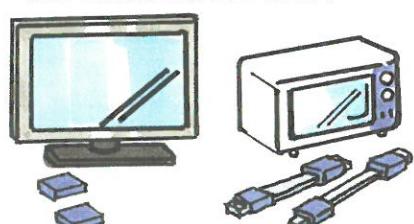
- 下からの突き上げに耐える天井が必要なので、強度がない場合は、あて板等で補強しましょう。

- さらにあて板と突っ張り棒、家具と突っ張り棒をねじで固定すると効果が高くなります。



その他

- 薄型テレビ（小型）や電子レンジを対策する場合は、粘着マットやストラップ式で固定できます。（大きな家具には適しません。）



ガラスの破片等の飛散防止対策

- 窓ガラスや家具のガラス扉のわれによる破片の飛散を防止するためには、「飛散防止フィルム」による対策があります。

- 収納の中の物の飛散を防止するためには、開き扉のストッパーなど、扉のない収納にはビン類の落下防止具を取り付ける対策があります。



○ 公営住宅や賃貸物件ではビス等で固定すると、引越しの際にビスによる穴の修繕費を請求されることがありますので、管理者によく確認を取って実施しましょう。固定の方法は、ビス等での固定ばかりではなく、家具の配置による対策、つっぱり棒や耐震マットによる対策もありますので、ご自身のお住まいに合わせた対策を実施しましょう。

○ 市町村によっては、家具の固定に補助を行っている場合がありますので、詳しくは市町村にお問い合わせください。

○ 家具の固定がご自分でできない場合は、地元工務店や専門家にお願いしてください。

発行

宮城県建築物等地震対策推進協議会
HP : <http://taishin-miyagi.net/>